

学校名	静岡市立横内小学校	校長名	吉田 誠
所在地	〒420-0844 静岡市葵区緑町1番1号		
	TEL 054-245-4695	FAX	054-247-5193
	E-mail	yokouti-eo@shizuoka.ednet.jp	
	URT	http://www.yokouti-e.shizuoka.ednet.jp/	

1 研究主題

「**主題**」：自ら学び追究する子」

副主題

・個の課題追究を支える「つかむ・できる」場の研究

2 研究の期間

昭和41年度～平成22年度(44年間)

3 研究の目的

子供が主体者となって課題を追究する授業づくり

体育を窓口とした楽しい授業づくり

新学習指導要領の精神を生かした授業実践

体育科各運動領域の系統図を作成(修正)。子供に付けたい力の明確化

体育におけるオリジナル教材研究開発

4 研究の方法・実践内容

運動の適時性の研究

・各学年の発達段階に即した指導計画の実践と教材開発。特に低学年時における「運動の素地となる動きの習得」の研究と実践を進めている。

・器械運動やボール運動等の領域ごと、1年生から6年生の発達段階(年齢)に応じた単元構成やオリジナル教材を研究・開発している。

運動の日常化

・週3回、朝の全校運動「いずみ運動」を40年以上に亘って継続。棒運動、ボール運動、縄跳び、持久走の4種目を交互に実施。特にボールは子供一人ひとりに「マイボール」を持たせ、日頃から活用させている。

・朝活動の時間にペア学級で「仲良し体育」を年間3回実施。高学年の子が低学年の子に、いずみ運動の技のお手本を見せながら指導している。

・放課後は原則として自由に運動場で遊べるようになっており、多くの子が、下校時間までサッカーやドッジボールなどで汗を流している。

・固定遊具についても、吊り輪や登り棒、平行棒、チェーン、リング等の遊具をたくさん設置し、日常的に子供が遊べるようにしている。特に鉄棒は、運動場に56基を設置し、多くの子供が練習できるような環境設定している。

課題をつかむ場の設定

・個々の子供やチームの課題をつかませるため、一人ひとりの子供に「学習カード」を持たせ、授業における本人・チームの課題を記入させている。また、授業の最後には、自己・相互評価をさせ、次時の課題を記入させている。

課題解決させる場の設定

・子供たちによる支援ルールの自己決定、技や動きをチェックするフィードバック装置、タスクゲーム、ミニゲーム等「局面限定の場の設定」を通して、子供たちに課題をつかませる方法と解決させる方法を授業を通して実践的に研究している。

体育を中心とした授業研究

・年間3回、教員全員参加の体育科研究授業実施。その他に、全教員が一人1研究授業を実施。学年団で参観し、事後研修を通して成果と課題を明確にしている。主に体育の授業を公開し、授業改善に努めている。

・日本体育大学副学長の高橋建夫教授を招聘し、授業を参観していただくと共に、体育授業のあり方についてご指導を仰いでいる。

・3年に一度、研究発表会を実施し、全国に向かって成果を発信している。

・23年秋、第18次研究発表会開催予定。

教材開発

・「ヨコウチセストボール」「ヨコウチハンドボール」

「ヨコウチプレルボール」等、本校オリジナルの教材が伝統的に受け継がれてきているが、それらを実践すると共に改良に努めている。

・特に、近年は、上記オリジナルゲームの「タスクゲーム」や「ドリルゲーム」「ミニゲーム」等の開発に力を入れており、第18次研究発表会でも、それらを提案したいと考えている。

運動の素地づくり

・低学年を中心に高学年で学習する種目やゲームの基本的な動きが自然に身につく運動の素地づくり(下位運動、ゲーム)を研究実践している。

TT指導の導入

・低学年の体育と算数にTT指導を導入し、2名で指導する体制をとっている。特に体育では、専門性の高いベテラン教員を配置し、運動の素地づくりや下位ゲーム開発のリード役を担うようにしている。

5 研究の成果

児童の体力と体格、運動能力の向上

・新体力テストは、ボール投げ以外すべての種目で平均を上回っている。肥満傾向の子の比率が、他校に比べ低い。

子供の課題をつかむ力と解決する力の伸張

・授業中、個に課題をつかませる場と解決させる場を設定する事により、自分の課題解決にこだわりをもって取り組む子が増えた。

課題をつかませる場では、学習カードを子供たちに持たせることにより、自分の課題を明確に表現できる子が増えてきている。解決の(できるようにする)場では、「局面の限定」や「下位教材の活用」「支援ルールの活用」「技等のフィードバック装置(チェック装置)」「ゲームフリージング」「モデリング」「ドリルゲーム」「タスクゲーム」「ミニゲーム」などを研究開発・実践し、児童の問題(課題)解決能力の伸張を図っている。

教材の系統性の明確化

・体育の各領域について、1年生から6年生までの教材の系統性に基づいた本校独自の指導計画が立案され、毎年、着実に実践されている。

・異動してきた新しい教員にも、着実に本校のオ

リジナル教材や指導計画が継承されるよう、研修部が学年研修や学年体育で伝達すると共に、研究授業で成果と課題を確認している。

求める授業像の共有化

本校の体育授業成立のための4つの要素

運動するための基本的態度(集団行動力)の育成

児童一人ひとりの運動量の確保

用具の準備や片付けの効率性。児童の安全への配慮

児童の積極的な授業参加と課題解決

本校の体育授業が成立する最低条件として上記4つが満たされているか常に相互評価している。

6 今後の課題

「知徳体のバランスのとれた学校」づくりをめざし、体育でも子供たちの心を成長させる場を大切にし、評価に生かしたい。道徳との関連性についても研究していきたい。

新学習指導要領の精神を生かした授業実践を進めるために指導要領の要点を共有化する必要がある。

「いずみ運動」(全校運動)の内容改善。特に、種目ごとに運動内容の難易度を自己選択できる場を設定していきたい。

器械運動を中心に、リプレイ装置などの視聴覚機器を個の課題把握や解決に活用する方法を研究したい。また、「運動の視覚化」のため、デジタル機器等の活用方法を研究していきたい。

学校全体で使え、全校から愛されるような準備運動セット(学級セット)を新たに作りたい。その際、ストレッチ系とウォームアップ(ヒップホップ)系の2種類を作成したい。

体育時におけるTT指導の可能性や効果を検証したい。

第18次研究発表会に向け、ボール運動を中心に、「ドリルゲーム」「タスクゲーム」「ミニゲーム」などの下位教材を新開発していく必要がある。